

# いわきを出る!

■掲載は旧14市町村の五十音順

## 旧三和村



昭和四十二年ごろの林業の風景(三和地区)。冬には炭焼きも行われた。[小宅幸一さん提供]

「今年の夏も扇風機だけで  
過ごせましたよ」

地域住民がこう話すよう  
に、三和町は涼しい。集落の

標高はおよそ二三二〇～五三〇  
メートル。平均気温は平に比  
べて二・五度も低いという。

八〇〇メートル級の山々が  
連なる。  
まさしく「山村」の旧三和  
村が誕生したのは、昭和三十  
(一九五五)年二月。東の永  
戸村、中央の沢渡村、北西の  
三坂村が合併して成立した。

境は小野町、平田村、古殿町  
に隣接。東西を貫く好間川流  
域以外は阿武隈高地に抱か  
れ、とりわけ南域では六〇〇  
～八〇〇メートル級の山々が

三和地区は総林野面積のう  
ち約一万二千ヘクタールを民  
有林が占め、市内地区別で一  
番の広さを誇る。当然、林業  
が盛んだった。



国道49号の「いわき三和トンネル」

名称が決まらず議論的となつたが、最終的には「三つの村の融和」を表現した「三和」を採用。  
人口は同三十三年に約八千三百人に上ったものの、二十年後には約五千三百人に減少している。高度経済成長期に差し掛かっているにもかかわらず。

この頃のいわき各地区をみると、人口激減は「炭鉱の閉山」が主な理由だが、三和村は「林業離れ」などが影響。双方は一見異なるように思えるが、「燃料革命」が共通していた。

### 貯金より山に手を

同三十三年当時、村内の就業者に占める農林業就業者の割合は八割超。特に民有林が多い沢渡地区は林業が主産業で、「貯金より山に手を入れろ」と言わされたほど。植栽されたスギは高く売れ、文字通り「宝の山」だった。

## 「燃料革命」で林業衰退 冬季は山々から炭焼きの煙

## いわき市

1966（昭和41）年10月1日、5市4町5村が大同合併して誕生。64年3月に常磐・郡山地区が「新産業都市」に認定されるまで、各市町村が協議会を設立して活動したことが契機となった。面積は1,232km<sup>2</sup>で、市としては2003年まで国内最大、県内の約9%を占める。工業出荷額は例年、東北で1、2を争う。人口は令和7年11月1日現在、31万3,319人。1997年に中核市指定



宿場の面影が残る三和地区的上市萱の集落。  
短冊状の街並みが広がる

## 合併前夜——旧三和村

（出典・市資料などから）

冬の農閑期になると、山のそこのかしこから煙が上がった。こたつや囲炉裏で用いる

燃料として石油が普及するなど、石炭と同様に木炭の需要も減少。外材の流入も相まって林業は衰退し、同五十三年度には従事者数が同二十二年度の五分の一以下まで激減。就労だけでなく教育環境などを求め、転出者が相次いでいた。

ところで、沢渡地区の特色を「林業」とすると、ほかの

減少を続け、十月一日現在では約二千二百人に。高齢化率は五〇%を超えた。こうした状況下、廃校の利活用、農産物直売所での「かあちゃんの弁当」の販売、若者有志による他地域へのイベント出展など、町を盛り上げる取り組みが行われている。

■次号は旧好間村

（鷹）

のため、新しい「いわき三和トンネル」が開通。平成七（一九九五）年には磐越自動車道「いわき三和IC」も開設された。

いわきと県中・県南の境に位置する三和は、車社会では、通過される場所とも言える。

一方、江戸時代には「宿場」が置かれ、短冊形の特徴的な街並みが広がった。現在でも上市萱、上三坂、中寺などにその面影を見ることができる。

交通環境は街の趨勢に影響を与える。村内的好間川に沿つて東西に通じていた通称・三坂街道は明治期以降に整備が行われ、昭和三十七（一九六二）年には一級国道49号（現国道49号）に格上げ。同道では二年後に三和トン

工事が完了した。平成二十二（二〇一〇）年には県中・県南と小名浜港を結ぶコンテナ輸送

木炭を作るための、「炭焼き」のサインだ。

同地区の岡村忠幸さん

（八六）は「山の各地に粘土で炭窯を設け、木炭を作ったものです。濁った煙が半透明になり、青くなると完成。東京へも売りに行きました」と、

当時を懐かしむ。

燃料として石油が普及する

など、石炭と同様に木炭の需要も減少。外材の流入も相まって林業は衰退し、同五十三年度には従事者数が同二十二年度の五分の一以下まで激減。就労だけでなく教育環境などを求め、転出者が相次いでいた。

二地区はどうだったのか。田園が広がる三坂地区は、養蚕、タバコ、畜産を含めた「農業」。好間に接する永戸地区は早くから勤め人が現れ、地域住民の言葉を借りれば「あか抜けている」。

産業が乏しい三和の人口は

減少を続け、十月一日現在では約二千二百人に。高齢化率

は五〇%を超えた。こうした

状況下、廃校の利活用、農産物直売所での「かあちゃんの

弁当」の販売、若者有志によ

る他地域へのイベント出展な

ど、町を盛り上げる取り組み

が行われている。

二地区はどうだったのか。田園が広がる三坂地区は、養蚕、タバコ、畜産を含めた「農業」。好間に接する永戸地区は早くから勤め人が現れ、地域住民の言葉を借りれば「あか抜けている」。

産業が乏しい三和の人口は

減少を続け、十月一日現在では約二千二百人に。高齢化率

は五〇%を超えた。こうした

状況下、廃校の利活用、農産物直売所での「かあちゃんの

弁当」の販売、若者有志によ

る他地域へのイベント出展な

ど、町を盛り上げる取り組み

が行われている。

皆様の幸運を招く  
恵比寿様 大黒様



恵比寿様

大黒様

2024年3月～  
マルト各店で販売開始!

食の安全・安心。さらに、おいしい  
シーフードチキン

お歳暮ご予約承り中

創作かまぼこ

<https://www.kaneman.net/>  
TEL.0120-17-3360

■本店  
福島県いわき市平下高久字下原83  
TEL.0246-39-3360-FAX.39-3754

かねまん 本舗

■電話・FAX・インターネットでも注文承ります。  
■本店営業時間AM8:00～PM4:00(年中無休)

■いわき・ら・ら・ミュウ店  
福島県いわき市小名浜字辰巳町43-1  
TEL&FAX.0246-53-7125

■オンラインショップ  
[www.kaneman.net](http://www.kaneman.net)  
インターネットでのご注文はこちら▶

